

一般社団法人 岩の力学連合会  
平成 30 年度・第 2 回常任理事会 議事録

日時	平成 30 年 8 月 10 日 10:00～13:50	場所	資源・素材学会会議室
----	------------------------------	----	------------

常任理事会	理事長	新 孝一	○	副理事長 (賞選考)	岸田 潔	●	幹事長 (総務)	岡田 哲実	○
	常任理事 (編集 (地盤))	谷 和夫	○	常任理事 (資源・素材)	伊藤 高敏	○	常任理事 (土木)	清木 隆文	×
	常任理事 (材料)	西村 強	○	常任理事 (前幹事長)	長田 昌彦	×	常務理事 (国際技術)	横尾 敦	×
	常務理事 (電子 J)	児玉 淳一	●	常務理事 (RockNet)	小山 倫史	○	常務理事 (賛助会員 特別会議)	奥野 哲夫	○
	ISRM 副総裁	清水 則一	●	オブザーバ (YSRM 幹事長)	安原 英明	●	オブザーバ (RDS 委員長)	藍檀 オメル	○
	オブザーバ (RDS 幹事)	岩田 直樹	○						

敬称略順不同, ○: 出席, ×: 欠席, ●: スカイプ出席

配 付 資 料

資料番号	頁	資 料
資料 30-常任 2-01	1	平成 30 年度・第 1 回常任理事会議事録 (案)
資料 30-常任 2-02	8	平成 30 年度・第 1 回理事会 (書面審議) 議事録 (案)
資料 30-常任 2-03	10	社員総会議事録
資料 30-常任 2-04	13	臨時理事会議事録 (案)
資料 30-常任 2-05	14	会員の入退会
資料 30-常任 2-06	16	国際シンポジウム 2019RDS
資料 30-常任 2-07	28	国際シンポジウム YSRM2019&REIF2019
資料 30-常任 2-08	76	火山に関する国際ワークショップの覚書
資料 30-常任 2-09	81	編集委員会
資料 30-常任 2-10	88	電子ジャーナル委員会
資料 30-常任 2-11	89	連合会賞選考委員会
資料 30-常任 2-12	91	賛助会員特別会議
資料 30-常任 2-13	92	岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッション
資料 30-常任 2-14	95	賛助会員特別会議提言を受けた講習会 (案)
資料 30-常任 2-15	97	ISRM COUNCIL MEETING 2018
資料 30-常任 2-16	98	第 23 回地下空間シンポジウム後援について
資料 30-常任 2-17	104	NPO 法人トンネル工学研究会 第 3 回講演会 協賛について
資料 30-常任 2-18	106	News Letter (2013ISRM Congress)
資料 30-常任 2-19	107	ISRM 14th International Congress of Rock Mechanics
資料 30-常任 2-20	110	定款

【議 題】

- 平成 30 年度 第 1 回常任理事会議事録の承認\* (岡田) 資料 30-常任 2-01  
修正なく議事録は承認された。
- 平成 30 年度 第 1 回理事会 (書面審議) 議事録の確認 (岡田) 資料 30-常任 2-02  
議事録の確認が行われた。特に質疑はなかった。
- 平成 30 年度 定時社員総会議事録 (案) の確認 (岡田) 資料 30-常任 2-03

#### 4. 平成 30 年度 臨時理事会議事録（案）の確認（岡田）

資料 30-常任 2-04

議事録の確認が行われた。特に質疑はなかった。

#### 5. 会員の入退会※（岡田）

資料 30-常任 2-05

平成 30 年 3 月 20 日～平成 30 年 5 月 15 日の会員の異動に対して、慰留を試みた 2 名のうち、1 名（朴氏）の慰留ができたこと、もう 1 名（大塚氏）については、まだ連絡がないことが報告された。このもう 1 名については次回の理事会で承認することとなった。慰留を行わなかった 4 名については退会が承認された。

また、平成 30 年 5 月 15 日～平成 30 年 8 月 3 日の会員の異動に対して、1 名の入会と 2 名の退会が承認された。

#### 6. 国際シンポジウム 2019RDS について（藍檀）

資料 30-常任 2-06

国際シンポジウム 2019RDS の進捗状況の報告に先立ち、新理事長より、次のコメントがあった。

- ・ 来年、沖縄で 2 件の国際会議があり、2 つのシンポジウム関連委員会における準備活動に感謝する。
- ・ 企業等への寄付等の協力依頼の活動の際に、それぞれの委員会より協力依頼があり、依頼された側としては、両方に協力する事は困難であり、どちらに協力すべきかわからないとの苦情があった。
- ・ また 2019RDS については、スポンサーシップという試みに対して高額の寄付依頼と解釈され、依頼された側としては対応に困るとの苦情があった。
- ・ JSRM として配慮が不足し、賛助会員等から苦情があったことは残念である。企業への依頼については、理事長を中心に、理事会等で調整作業を行うべきであった。企業からの苦情に立ち会った皆さま、協力依頼を受けた企業の皆さまにお詫びしたい。
- ・ 今後の活動においては、連合会の看板を背負っていることを意識していただき、何か懸念があった場合には事前に連絡していただくなど、連合会と賛助会員との関係を損なわないように進めていただく事をお願いしたい。

次に、2019RDS の準備状況、アブストラクトの投稿数、最新の予算書などが紹介され、以下の質疑があった。

- Q. 予算書に空港と会場のシャトルバスの記載があるが、ホテルと会場についてはどうなっているのか。
- A. ブセナテラスホテル、マリオットホテル、喜瀬ビーチパレスを、オフィシャルなホテルとして指定する予定である。ブセナテラスホテルについては、歩いて 2-3 分である。他については、ホテルにミニバスを用意してもらうことになっている。
- Q. 賛助会員の特典として、賛助会員企業からの 1 名の参加者には登録費の割引があるはずだが、どこに記載されているのか。
- A. 記載されていないので、どこかに記載するようにしたい。
- Q. 会計は連合会で一本化されているので、バンケット、エクスカージョン等についても予算書に挙げておいた方がよい。
- A. バンケットやエクスカージョンについては、収支上は独立採算なので、今は計上していないが、会計上必要であれば記載するようにしたい。
- Q. 予算書の項目に基調講演者旅費があるが、その内訳では謝金の記載になっている。旅費なのか、謝金なのか明確にして分離しなければならない。また、一般的には講演者に旅費は出さないのが普通である。
- A. 旅費は出さず、基本的には宿泊費、登録費を免除する考え方である。
- Q. 登録費を免除するか、収めてもらうかで、ISRM 上納金が変わる。登録費を免除するのであれば、基調講演者の旅費の 16 万 9000 円は、登録費相当額を 2 重に払っていることになるのではないか。また、基調講演者の登録費は収入にカウントされているのか。

- A. カウントされていない。2019RDS としては、可能なら旅費も出したいが、難しいので、謝金として支給可能な金額を用意したいと考えている。
- C. 会計監査を行う上で、旅費と謝金を分けて頂くとともに、備考欄に基調講演者の登録料が入っていない事などを記載してほしい。
- A. 指摘の意見を踏まえ予算書を修正したい。

以上より、2019RDS の内容、最新の予算書については基本的に了承された。また、指摘の意見を踏まえ、修正した予算書を次回の理事会で紹介していただくこととなった。

7. 国際シンポジウム YSRM2019&REIF2019 について (安原) 資料 30-常任 2-07  
 YSRM2019&REIF2019 の準備状況が紹介され、以下の質疑があった。

- Q. YSRM2019&REIF2019 の企業等へのブースや寄付等の協力依頼は今後も行われる予定か。
- A. ほぼ終了したと考えている。今後は HP 上のみで依頼することになると思う。
- Q. 2019RDS の方については、企業等への協力依頼は今後も行われる予定か。
- A. ほぼ終了したと考えている。
- C. では、今から JSRM で改めて調整する必要はないと思う。
- Q. スカラーシップ表彰というのはとても面白いと思う。学生や若手は登録費や旅費を各自で工面して参加していると思う。スカラーシップは後から現金で振り込まれ、ポケットマネーになるという理解でよいか。
- A. ポケットマネーになってもいいと考えている。
- Q. ARMS8 の時はどうだったのか。
- A. 参加費は払ってもらっておいて、それをカバーできるくらいの金額をスカラーシップとして現地で渡したと記憶している。
- C. 渡して税金の減免の書類を書いてもらったはずである。
- C. 事前にスカラーシップ表彰の対象者分かっているとお金のことも差配しやすいので、事前に知らせる方向で検討したい。
- Q. どのようにして表彰の対象者を選ぶのか。
- A. 今後検討することになるが、委員会で地域や年齢を考慮して選ぶことになると思う。

以上より、YSRM2019&REIF2019 の内容については基本的に了承された。また、企業等へのブースや寄付等の協力依頼に関して、2019RDS との今後の調整は行わないこととなった。

8. 火山に関する国際ワークショップの覚書締結の承認\* (理事長) 資料 30-常任 2-08  
 火山に関する国際ワークショップの覚書の案が紹介され、以下の質疑があった。

- Q. 会議名が Workshop で、それが ISRM の Specialized Conference というのは、会議のサイズ感が逆転しているように思うが、違和感はないか。
- A. この会議については、これまでも ISRM の Specialized Conference として Workshop の会議名で開催されてきた。ただし、今後、組織委員会で会議名を変更することはあると思う。
- Q. 過去の Workshop は何名くらいの規模だったのか。
- A. 100 名前後だったと聞いている。
- C. 応用地質学会では今回も 100 名前後の参加者を想定し、福岡大学の施設をつかう案を検討している。

以上より、火山に関する国際ワークショップの覚書の内容とその締結が承認された。

9. 各委員会の活動状況報告など

1) 編集委員会（谷）

資料 30-常任 2-09

活動状況について、岩の力学ニュースの最新号の内容と過去の岩の力学ニュースの WEB 掲載のための検討状況が報告され、（株）明倫社への pdf データの発注が承認された。以下の質疑があった。

- C. 岩の力学ニュースの 1～59 号については、印刷会社が不明である。
- C. 連合会の事務局の段ボールの中に古い岩の力学ニュースがあったと記憶している。
- C. まずは事務局に紙ベースのものが残っているかどうか調べてもらうことにしたい。

以上より、60 号以降については既に PDF 化が完了し、事務局が保有しているので、今後 Rock Net 委員会にて会員限定の Web ページ上で公開する方向で検討していただくこととなった。

2) 国際技術委員（横尾）

特に報告はなかった。

3) 電子ジャーナル委員会（児玉）

資料 30-常任 2-10

電子ジャーナルの最新号の内容が報告された。特に質疑はなかった。

4) Rock Net 委員会（小山）

口頭のみ

会員限定 Web ページは追加費用なしで作成可能であること、岩の力学国内シンポジウムのリストを掲載し、今後、会員限定 Web ページで論文のリンクを張ること等が報告された。また、Web 上でインターネット選挙を行うことについて、以下の質疑があった。

- Q. インターネット選挙について具体的なイメージできていない。前回の選挙管理委員会としては、どのようなイメージを持っているのか。
- A. これまではがきで実施していた事をインターネットで行うイメージである。
- C. 誰が誰に投票したかが、Web の管理者にわかってしまうが、よいか。
- A. 選挙管理委員会のメンバーにはわかるので、Web の管理者にもわかることが問題かどうか検討の必要がある。セキュリティー上、許されるかどうか問題である。
- C. 次回の理事会では、前回の選挙の投票のはがきを持ってきてもらい議論してはどうか。
- C. 選挙の話については、定款に記載がある可能性があるため、慎重に進める必要がある。
- C. 次回にインターネットで実施するのは難しいのではないか。
- C. 一度、次期の選挙管理委員会に可能性を検討してもらってはどうか。

以上より、インターネット選挙については次回の理事会で選挙管理委員会委員長の承認とあわせて再度議論することとなった。

5) 連合会賞選考委員会（岸田）

資料 30-常任 2-11

今年度の博士論文賞の募集が始まったことが報告された。特に質疑はなかった。

6) 総務委員会（岡田）

口頭のみ

特に報告はなかった。

7) 賛助会委員特別会議（奥野）

資料 30-常任 2-12

賛助会員特別会議運営企画委員会が 9 月に開催される予定であること等が報告された。また、報告内容とは無関係であるが、以下の質疑があった。

Q. 伊藤忠テクノソリューションズ (CTC) より、賛助会員から退会したいとの連絡があり、慰留して退会を延期してもらった。退会の理由は、CTC から誰も JSRM の委員会等に参加しておらず、何の恩恵も受けていないということであった。賛助会員特別会議では CTC にも声をかけているか。

A. 賛助会員特別会議に案内は出しているが、前回は参加されていなかったと思う。

C. 委員会の委員が、一部の機関に固定化していないかどうかは気にした方がよい。

8) ILC 研究企画特別委員会 (横尾)

なし

特に報告はなかった。

10. 岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッション (岡田)

資料 30-常任 2-13

岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッションについて、経緯の説明と、各学会代表から提出してもらった講演者案の紹介があり、以下の質疑があった。

Q. 前回の理事会以降に岩盤力学委員会論文小委員会は開催されたのか。

A. 開催されていない。

C. 小山理事が論文小委員会のメンバーであるので、前回理事会で決まったセッションのテーマ「新しい岩盤科学技術-JSRM オーガナイズドセッション-」をお伝え願いたい。

C. P.94 のリストにある小笠原先生については、伊藤理事の紹介で、2019RDS でも講演をお願いしている。先生は南アフリカの鉱山で地震観測を行っている。

C. 岩盤力学シンポジウムは 1/12-13 (土日) に岩手の開催である。オーガナイズドセッションは、今のところ 1/12 (土) の 13:30-15:00 (90 分) の予定である。

C. 90 分であれば、講演者は最大 3 名と思われる。

C. ISRM の Suggested Method で真三軸試験の委員会が承認されており、日本からは大林組の鈴木さんと産総研の高橋さんが関与されているので、そのようなテーマもよいのではないか。

C. 地下深部、地震の発生源をキーワードにして講演者を選定してはどうか。

C. P.94 のリストにある片山先生は、レオロジー、沈み込み帯等の深部の力学で地震の発生とも関連があるかもしれない。

Q. スケジュール的に、次回の理事会で講演者を決定するのでは遅すぎるのではないか。

A. 10 月末に講演者と概要を論文小委員会に連絡する必要があるため、断られることも考慮して、次回理事会までに候補者に打診をしておく必要がある。先ほど、名前が挙がった片山先生、小笠原先生、高橋さんに打診してみたい。

Q. 旅費や謝金は払われるのか。

A. 予算もとってあるので払われると思う。旅費を節約するという意味では東北地方の方がよい。

C. 地震という観点では、東北大の遠田先生がよいのではないか。

C. JSRM 会員の中で地震という観点では、東大の上西先生もよいのではないか。

以上より、今回名前が挙がった方々に幹事長より打診を行うこととなった。

11. 賛助会員特別会議提言を受けた講習会 (岡田)

資料 30-常任 2-14

賛助会員特別会議提言を受けた講習会の案について紹介があり、以下の質疑があった。

Q. 当初の案では普段大学院で行っている講義を賛助会員向けに実施するように聞いていたが、今回の案では、講演会のような印象である。講義と講演会、どちらのイメージで実施すればよいか。

A. 今回は、各人 1 回のみなので、講演会に近いイメージである。

C. 賛助会員特別会議で出た意見としては、若い実務者で岩盤工学を知らない人が多いので、そういう人に対して、トンネル、ダム、掘削、岩盤分類等の基礎的な話を聞かせて欲しいというリクエストであ

った。大学の授業に近い話で実務にも使われるところをやっていたら有り難い。講演会風に面白い話を聞くという主旨ではないと思う。

C. 岩盤力学の教科書を分担してやるというイメージではなく、一人一人で完結するような形と理解した。

C. 講師の先生方にまずタイトルを連絡していただくことにさせていただきたい。

以上より、講師として名前が挙がっている清水先生、岸田先生、谷先生、伊藤先生、長田先生に講義のタイトルと簡単な内容を送っていただくことになった。

## 12. ISRM COUNCIL MEETING 2018 について（新） 資料 30-常任 2-15

10月30日にシンガポールで開催される ISRM の COUNCIL MEETING の概要が紹介された。特に意見はなかった。

## 13. その他

- ・ 第 23 回地下空間シンポジウム後援について 資料 30-常任 2-16  
第 23 回地下空間シンポジウムの後援の依頼が来ていることが紹介され、了承された。
- ・ NPO 法人トンネル工学研究会 第 3 回講演会 協賛について 資料 30-常任 2-17  
トンネル工学研究会 第 3 回講演会の協賛の依頼が来ていることが紹介され、了承された。
- ・ News Letter (2023ISRM Congress) 資料 30-常任 2-18  
韓国より、2023 年の ISRM Congress の宣伝が来ていることが紹介された。
- ・ ISRM 14th International Congress of Rock Mechanics 資料 30-常任 2-19  
2019 年の ISRM の 14th International Congress のアブストラクトを募集中であり、現在、投稿数が少ないことが紹介された。
- ・ ISRM 本部役員の位置づけについて 資料 30-常任 2-20  
119 ページの定款に ISRM 本部役員が JSRM の常任理事会のメンバーであることが紹介された。また、今後、定款の改定を行うべき数箇所が紹介された。
- ・ ISRM の the Committee on Education について  
石田先生から奈良先生に交代することが紹介された。

## 14. 今後の予定

- 1) 平成 30 第 2 回理事会（平成 30 年 9 月下旬～10 月上旬）メールにて日程調整
- 2) 総会時臨時理事会向け年間スケジュール（平成 30 年 11 月上旬選挙管理委員会スタート）

※ 決議・承認事項

以上